

四国における風景街道の取組について

道路部 地域道路課 市川 緑
道路部 地域道路調整官 山本 崇

日本風景街道は景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、地域活性化、観光振興に寄与するとともに、国土文化の再興の一助となることを目的とした取り組みである。

本論文では四国における風景街道の取り組みについて報告するとともに、今後も取り組みを継続するための方針について模索した。

キーワード 日本風景街道、地域活性、地域資源、高齢化、道路協力団体

1. はじめに

国土交通省では、郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見・創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動により、地域活性化や観光振興に寄与するとともに、国土文化の再興の一助となることを目的として、平成19年より日本風景街道¹⁾の登録を開始し、現在、全国で141ルートが登録されている。

風景街道は、「地域の資源」・「活動する人たち」・「活動内容」・「活動の場」から構成され、それらを総称した名称である（図-1）。

また、日本風景街道は4つの運動方針（表-1）を掲げて進めてきたが、登録開始から15年以上が経過し、登録済みのルートでも、活発な活動を行っている風景街道がある一方、高齢化や人手不足等を背景に、活動が停滞している風景街道も見られる。

そこで、四国内で活発な活動を継続している風景街道と、活動が停滞している風景街道を対象に、それぞれの特徴や課題を分析し、日本風景街道の取り組みを活性化させる方針について模索した。

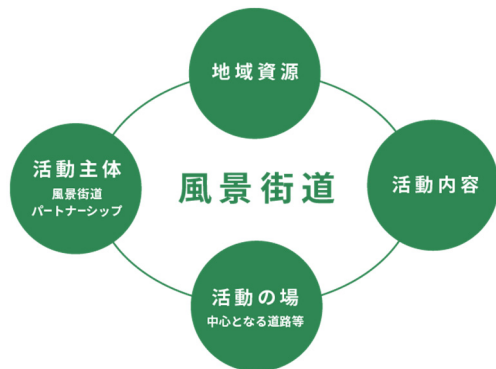


図-1 風景街道構成する要素

方針1	『全国に運動を拡げること』 多くの地域が日本風景街道に参画し、全国各地に美しい風景を上げるとともに地域コミュニティの再生を目指す運動。
方針2	『多様性を確保すること』 景観、自然、歴史、文化等の地域の資源を活かし、多様な風景の形成を目指す運動。
方針3	『さらなる質の向上を図ること』 個性ある地域資源に磨きをかけ、そこに暮らす人々が誇りを持ち、訪れる人を魅了する、世界に対して発信できるような質の高い風景の形成を目指す運動。
方針4	『継続的な運動とすること』 一過性で終わることのない、息の長い運動。

表-1 日本風景街道の運動方針

2. 四国管内の風景街道について

四国管内の風景街道は令和4年度末時点で15ルート（徳島県5、香川県3、愛媛3、高知4ルート）が登録されている（図-2）。

主な活動として、桜や蛍といった地域にある自然や史跡や産業といった文化を生かしたイベントの開催、講座や美化活動等、多岐にわたっている。

ところが、この数年間は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、多数のイベントが中止になったが、コロナ禍でも開催できるよう、工夫を凝らした活動をしているルートもある。



図-2 四国管内の風景街道

ここでは、四国内の風景街道の概要と取り組みについて、いくつかのルートを紹介する。

(1) むれ源平石あかりロード (香川県高松市牟礼町)

世界一高価な花崗岩“庵治石(あじいし)”の産地として有名であり、隣町の庵治町とあわせ約250の石材店が軒を連ねているほか、石の町・牟礼町には、源平屋島合戦(1185年)の史跡が数多く残されている。

「源平史跡」と「石材産業」の2つの良さを生かし、距離のある史跡と史跡の間に庵治石で作った石あかりを設置して人に歩いてもらうイベントが開催されている。

感染症拡大の影響により、令和2～3年はイベントを中止。しかし令和3年に「お家de石あかりモート2021」として“元気な昭和”をテーマに映像を作成し、youtube²⁾で公開した。また、令和4年には開催期間を大幅短縮、イベント内容の縮小により、3年ぶりに沿道上で開催された。展示されている石あかりは購入可能。



写真-1 『お家de石あかりモート2021』 (youtube)

(2) えひめ やまなみ燦々 風景街道

(愛媛県上浮穴郡久万高原町)

平均標高800mに位置する久万高原。空に星に太陽に近い場所で道路からは美しい山々が連なる雄大な「やまなみ」を眺め、燦々と降り注ぐ太陽(サン)の光や山(さん)の恵みをたっぷり受ける高原野菜、都市部への幹線となる国道33号線等から「えひめ やまなみ燦々 風景街道」と名付けられ、豊かな自然の風景を眺めることができる。

年に数回、道路美化活動として沿道の清掃活動や、花の苗植えを行っている。また、いくつかのモデルルート等の情報をホームページ上で紹介³⁾し、ルートの魅力発信を行っている。



写真-2 えひめ やまなみ燦々 風景街道の活動状況

3. 四国の活動団体が抱える課題

令和元年に四国管内の全ルートにヒアリングを行った結果、①活動の停滞、②認知度不足、③高齢化に伴う人員不足、④資金不足という4つの課題があることがわかった。

これはコロナ禍中である令和2～4年にかけて各ルートとの意見交換会に参加して、コロナ禍での課題を含めて聴取したが、同様な意見であった。



写真-3 各団体との意見交換の様子（令和4年）

「むれ源平石あかりロード」においては、活動団体の中心に「むれ源平石あかりロード実行委員会」を設け、行政と、まちづくり協議会や学校・商工会などがタッグをくんでチームとして活動している（図-3）。

また、活動のメンバーは高齢化となっているため、イベント開催時には、周辺の大学等や学生にボランティアとして参加していただき、人員不足やメンバーの若年化と活性化に繋げている。

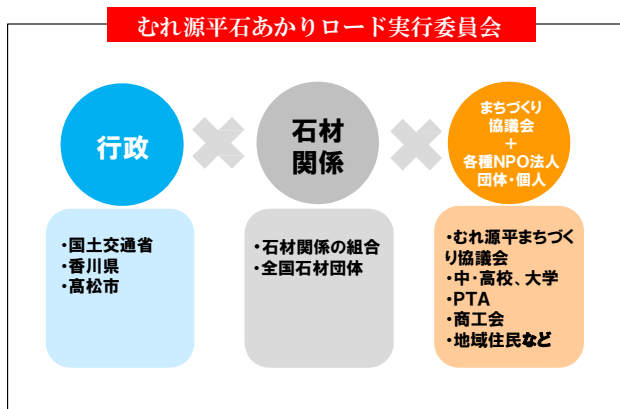


図-3 実行委員会組織



写真-5 学生によるイベント企画・運営

さらに、活動を行う上で必要な事務作業については外注化することにより、労務作業の削減につながり、メンバーの負担軽減となっている。これにより、課題の①活動の停滞と③高齢化に伴う人員不足について、多少の緩和につながっていると思われる。

次に、②認知度不足については、前述のSNSを活用した取り組み（『お家de石あかりモート2021』）により、コロナ禍でも可能なイベントや、四国内外を問わず、各種のイベントに当該ルートのPRに参加している。

また、整備局における広報活動としても、全ルートの案内マップの更新やホームページにイベント情報を随時更新しているほか、道の駅ドライブマップにも風景街道のページを掲載している



写真-4 ルート案内マップ 道の駅ドライブマップ

さらに、各団体の一番の悩みである④資金不足は、行政の補助金・助成金の活用だけでなく、民間補助（イオン1%クラブ、（一社）四国クリエイティブ協会の公益事業費など）を活用するほか、イベント開催時には関係企業と提携した協賛金や関連商品の販売による収益を得て、活動の資金としている。

一方、「えひめ やまなみ燦々 風景街道」においては、主な活動が、道路の清掃活動を実施しているグループへ、花苗等の支援を行い、道路沿線の緑地帯へ、年間2回花植えによる美化活動を行っている。

今後、水やりをするなど地域全体で管理を行うことで、地域住民の心を育てると共に、観光客の目を楽しませることが期待される。



写真-6 美化活動団体

うっそうとした道路沿線の景観を改善することを目的に、地権者の協力のもと、道路沿線の樹木伐採を行い、景観の改善を図っている。

これらの活動により、道路沿線に開けた空間形成が確保され、景色を楽しむことができるようになったほか、冬期には路面に日が当たるようになり、路面凍結の解消にも効果が出ている。

ただし、風景街道としての活動は活発であるが、イベント等による収益活動は実施しておらず、活動資金は行政からの補助金のみであり、活動資金の不足は否めない。

そこで、今後は花植えによる美化活動を活かしたイベントや広報活動を検討するとともに、安定した活動資金の確保のため、町内企業からの協賛金のご協力をいただくことも検討することとしている。

さらに、美化活動は何年も継続していることから、道路協力団体制度⁴⁾を活用した収益活動により、持続性のあるイベントとして実施していくことが必要ではと考える。



図-4 協力団体制度

5. まとめ

風景街道の活動を行っていくためには、活動を行うための基盤である活動団体が必要であるのは言うまでもないが、必要な要素として下記の4つが考えられる。

- ①活動団体を引っ張る「人」。リーダーでもあるとともに、地域とのコミュニティとの窓口も務める。また、既存の団体はメンバーの高齢化と入替なしに続けているところが多く、マンネリ化は否めない。そのため、新たに地元の商工会や銀行（地元の情報力として）、マスコミ関係者も加わればベ

ストではないかと思われる。

- ②活動の目玉となる「もの」。

「むれ源平石あかりロード」のような固形物である必要はなく、映える風景そのものでもかまわないし、その地域特有の映るものを見つける必要があるが、必要に応じて地域住民以外の方の視点で意見を聴取してもよいと思われる。

- ③活動の目玉を用意するだけでなく、それを効率的に活かすためには、地域の産業・観光・文化振興などの「こと（活動）」と相互効果を得られるように活動する必要があると思われる。

- ④安定した活動を続けるためには、何よりも資金である「金」は必要であるが、行政の補助金だけでは不足かつ継続的にもらえる保証もない。そのため、民間の補助制度の活用やイベント等の実施による収益活動の実施により確保していくことが重要である。

以上のように、活動団体がハブとなり、これら4つの項目をPDCAのように回すことにより、風景街道の活動を持続可能なものにしていくとともに、地域コミュニティを形成し、しいては日本風景街道の目的でもある「地域活性化」に寄与していくのではないかと考える。今後も、引き続き四国内の風景街道の活動団体の意見交換会などに積極的に参加するとともに、少しでも活動が活発になるような支援を続けていきたい。

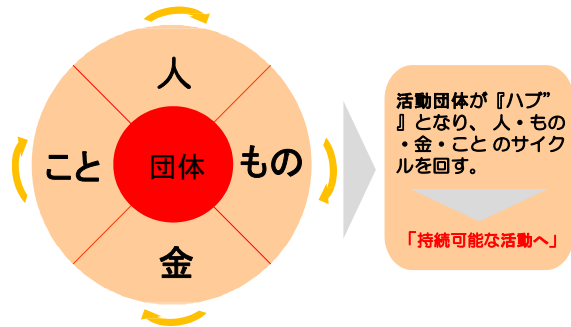


図-5 安定した活動イメージ

参考文献

- 1) 国土交通省：日本風景街道、<https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/contents/overview.html>, 参照 2023. 6. 19
- 2) むれ源平石あかりロード実行委員会：お家de石あかりロード、<https://youtu.be/IAfIVRNsuGc>, 参照 2023. 06. 20
- 3) えひめ やまなみ燦々振興協議会：えひめやまなみ燦々風景街道、<https://www.kumakogen-sansan.com/yamanami/about>, 参照 2023. 06. 20
- 4) 国土交通省：道路協力団体制度、<https://www.mlit.go.jp/road/kyoryokudantai/>, 参照2023. 06. 20